

# FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利  
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫



2004-2005年度  
RIテーマ

ロータリーを  
祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア



水鳥

[写真提供：青島 克郎君]

## 第1598回

<ソング> 君が代・奉仕の理想  
<ソングリーダー> 青島 克郎君

CELEBRATE  
ROTARY



### 会長挨拶

柳原 寿男君

10月30日、31日の2日間、2004～05年度地区大会が熱海ニューフジヤホテルで開催されました。

大会第1日目の会長、幹事会に宮川幹事と出席しました。詳細は後程ご報告しますが、14時点鐘、国歌斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」のあと、開会の言葉（勝又一郎大会実行委員長）、RI会長代理、来賓、役員の紹介（渡辺脩助ガバナー）続いてガバナー挨拶、半田昭雄RI会長代理（浦和北RC）挨拶があり、その後は恒例の大会四委員会、地区八委員会報告で休憩。特別講演「如何に育てん我らの新世代」は、RI第280地区バスターガバナー藤川享胤氏によるもので、大層感銘を与えられたものである。（詳細後述）

大会第2日目は例年通りのセレモニーで終始しました。（大会案内、パンフレット参照）記念講演「富士山から日本を変える」は七大陸最高峰世界最年少登頂記録を25才で樹立したアルピニスト野口健氏によるもので、大層感動させられた。現在は環境保護と観光振興のあり方に対して、精力的に活動されている。

### 幹事報告

宮川 邦光君

- 国際ロータリー第2620地区渡邊ガバナー、勝又地区大会運営委員長から地区大会のお礼状とポリオ撲滅運動チャリティーゴルフ大会報告が届いております。
- 静岡第5分区曾根ガバナー補佐から「理恵さんを救う会」への募金協力についての依頼文が届

いております。同様の依頼が磐田、袋井両クラブからも届いております。本日の理事会に計ります。

- ガバナー会議長の仲田順和ガバナーから台風23号、新潟県中越地震の義援金協力の依頼文が届いております。
- ROTARIANの英語版が届いております。
- 静岡、静岡北、静岡西の各クラブより会報が届いております。
- 藤枝子どもと本をつなぐ会通信No15が届いております。

### 出席報告

松葉 隆夫君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
22 / 42 52.38%	31 / 42 73.81%

(1)欠席者（事前連絡とメーカーキャップをどうぞ）

飯塚君 岩田君 水野君 望月俊君  
小西君 仲田廣君 桜井龍君 増田君  
酒向君 鈴木晶君 成瀬君 松葉隆君  
浅川君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君 村松英君  
村松宏君 望月志君

(2)メーカーアップ者

水野 義猛君（静岡東・藤枝）  
岩田 規君（藤枝南） 村松 宏一君（藤枝南）  
岩崎 四郎君（藤枝南） 片岡 利碩君（藤枝南）  
松葉 隆夫君（藤枝南） 杉山 静一君（藤枝南）  
小宮 弘一郎君（藤枝南） 鈴木 廣利君（静岡北）

## ビジター

藪崎 宰一君（藤枝南）

### スマイルBOX

- 誕生お祝いありがとうございます。一つの区切りの年、健康で迎えることに感謝です。そこで一句「還暦やそばにお前が居ればこそ」

後藤 功君

- 会員・婦人同月誕生です。2人とも11・22です。

山田 昭雄君

- 結婚祝いありがとうございます。夫婦で山歩きを楽しんでおります。

岩崎 四郎君

- 結婚お祝い有難うございます。

石垣 義康君

- お祝いありがとうございました。16回目の記念日です。記録更新中

池ノ谷 敏正君

スマイル累計額 461,300円

### 2004～05年度地区大会報告



柳原 寿男君

<ガバナー挨拶の要点>

ロータリー創立100周年記念事業として

- 1) 富士山の世界遺産を目指して、環境美化を訴えていく。
- 2) 新世代の健全育成
- 3) ポリオ撲滅運動の最終年度

地区の最大の問題は、1995年頃の会員数が4,600名あったのが、10年後の現在は900名減少して3,719名となったことで、会員増強、退会防止に努めなければならない。

<特別講演>「如何に育てん我らの新世代」

藤川享胤氏 R I 第280地区パストガバナー  
(録音テープより抜粋)

日本の若者が危いと云われてかなりの月日が経っているが、改善されることなく、かえって悪化の傾向さえみられる昨今である。新世代の育成はその国の存亡にかかわる大事な問題であり、今や

世界各国での共通問題となっている。R Iに於いても然り。重大な関心が青少年問題に寄せられている。

ポール・ハリスは、約70年前にあたかも現代を予言するかのように、警鐘を鳴らしている。即ち「繁栄は際限のない憧れであり、窮乏は悲嘆と悩みの種である。我々は繁栄によって強健な国民が育ったためしが無いことを忘れている。繁栄は、精神的にも肉体的にも人を怠惰にする。即ち滅亡の前兆である」と。此の言葉を、日本のバブル経済に当てはめてみると、人を怠惰にし、正に滅亡の前兆であると言えよう。しかし考え方を変えれば、我々自身的人格形成と新世代の健全育成のためには、今こそ絶好の時期と思える。だが、怠惰な人間がそこから立ち上がるには、強い勇気と信念が必要であろう。

日本の家庭教育、学校教育、社会教育のどこが、どのようにおかしいのか考えてみよう。

我々に新世代の心が見えているか。それとも見えているつもりなのか。我々が良かれと思っている事のなかに、彼等の健全育成にマイナス作用のものが無い。また、彼等の心の訴えを正しく受け止めているだろうか。

○家庭内の過保護

日本小児科学会の三浦先生は、宮沢賢治の作品「雨にもマケズ」を次のようにパロディとして詠んでいる。

雨にもアテズ、風にもアテズ  
雪にも夏の暑さにもアテズ  
ブヨブヨの体に沢山着込み  
意欲もなく、体力もなく  
いつもブラブラして不満を持っている

毎日、塾に追われ

テレビに吸いついて遊ばず

朝からアクビし、集会があれば貧血を起こし

あらゆることを自分のためだけとし

作業はぐずぐず注意散漫

すぐ飽き、そしてすぐ忘れ

立派な家の自分の部屋に閉じこもっていて、

東に病人あれば医者が悪いと言い  
西に疲れた母あれば養老院へ行けと言い  
南に死にそんな人あれば寿命だと言い  
北にケンカや訴訟があれば眺めて係わらず  
日照りの時は冷房をつけ  
みんなに勉強勉強と言われ  
しかりもせず、こわいもの知らず  
こんな現代っ子に誰がした

身につまされるパロディである。過保護に育ててはいけないうして、江戸時代の学者見原益軒の言葉に「三分の餓え、三分の寒さ」がある。

現代っ子に、雑巾を絞れない子、ナイフでエンピツをけずれない子、手動の缶切りで缶を開けられない子が居る。いずれも親がさせなかったから、本来持っている機能の訓練が出来ていない事からきている。

世界では年間1,800万人の飢え死の人が居ると言われている。一日5万人である。その4分の3は5才未満の子供達である。

年間10億人が水さえ不足した生活を送っている。汚染された水を飲んで、500万人が死亡と聞く。

読み書き、最小限の計算の出来ない非識字者は10億人、そのうち4分の1がアジアに住み、3分の2が女性。

世界中に1億3,000万人以上、小学校にも行けない子供が居るのが、現実である。

他方、日本はどうかと言うと、女性向けの雑誌の半分は、痩身を扱っており、日本の猫までが糖尿病を心配しているとさえ言われる。

学校給食の残飯は年間2,800億円に上がり、家庭、旅館、ホテル等の総計では1兆円を捨てているという。

改めて過保護との決別を提唱したい。少年犯罪の60%は万引きである。捕まった子供の母親が例外なく云う最初の言葉「何不自由なく育てたのに!!」だからこそ我慢の出来にくい子供に育てたのである。耐える事の大切さを教えるべき人が教えなかった結果であろう。

「キレた」と言う。何が切れたのか。我慢の限界が切れたのか。はじめから、そんなものは持っていなかったのではないか。

子供の夢を叶えることが親の愛情と錯覚している親が多い。親のみならず祖父母もまた然りである。

ドイツの教育学者グスタックの著書「父親の有り様」に10か条の戒めがある。

遠くても歩かせる。雨が降っても迎えに行くな。電車では立たせよ。高い山に登らせよ。

子供の部屋の整理は手伝うな。遠慮なく使いに出せ。朝、2度以上子供を起こしてやるな。

仕事をさせよ。仕事がないければ探させよ。甘えん坊に決して作るな。

さて、一方、子供達は家庭をしっかりと見ているものである。

●俺の父まるで母ちゃんそっくりだ

朝から晩まで子供にブツブツ

●飲むと直ぐ子供の俺にぐずぐずと

過ぎた事まで父はほじくる

●父さん二重人格、僕嫌い

家で威張って会社でペコペコ

●シンナーで補導されたその晩に

家族みんなでメシ食いました。

では日本の父親は何をなすべきか。

- 1) 子供が真剣に問いかけた時、すべての事を犠牲にしてその子のことを受け止める。新聞を見たり、テレビを見たりでなく・・・
- 2) 父親は一貫性を持つということ。あんなに約束したのに、どうして破ったの。酒飲んで言ったのだから・・・
- 3) 自分の間違いに気付いた時、子供に潔く謝れる父親であること。オヤジの権威が失墜したなど考えず・・・

○学校教育について

不況といわれながらも、日本の経済力はまだまだ世界のトップレベルにある。しかるに日本人の人間としての評価が低いのは、如何なるものであろう。

戦後60年、日本人の人生への価値感に、大きな誤りがあったからではないか。これまで判断や行動の基準を、あまりにも損得の面にゆだね過ぎて来たような気がする。自由競争という名を借りて、儲かるなら何をしてもOKという考え方が、いつの間にか我々の心に居すわったのではないか。

官僚や企業の低レベルの不祥事にさえ、あんな事、どこでも誰だって多かれ少なかれやっているとうそぶく感性が、いつの間にか心の隅に残るようになった。

戦後、それまでであった素晴らしい精神的価値感をないがしろにして、高度成長の掛け声の下で、拝金主義的価値観ばかりを追い求めて来たのではないか。そのような波が子供達にも押し寄せて来た結果、有名中学、高校、一流大学を出て一流企業に入り、できるだけ多くの収入を得た人が、人生の勝利者であり、それが取りも直さず人間の幸せに直結すると錯覚したのである。

教育の現場には偏差値という美名の下に、生徒達の成績をアップさせるテクニックを持った教師が重宝がられたのも事実である。しかし子供の教育には知育も大切だが、知育一辺倒の教育では健全な成長は望めない。知育、徳育、体育のバランスが、欠くべからざる必要条件である。

今や親は無論、祖父母達さえひたすらエリートコースに乗せたがっている。しかし我々ロータリアンが此の意識を変えずして、此の国の青少年の健全育成はあり得ないのである。学校教育で見直してもらいたい事は、知育偏重主義との決別である。

成績のあまりかんばしくない高校生の短歌を三首。

順位だけいつも変わらぬこの僕に

父は冷たくは母ガミガミ  
通信簿父に見せれば青ざめて

俺の顔見てため息ついた  
通信簿親に見せずにハンコして

持って来たのさ俺はかしこい

## 地区大会参加幹事報告



宮川 邦光君

第1日目(10月30日)会長、幹事会に柳原会長と共に出席してまいりました。

会議の内容に付き

ましても、会長から報告がありますので省略させていただきます。

第2日目、藤枝駅に8時に集合、参加予定者19名(全員)と、順心高校の生徒2名総勢21名で、新幹線で会場の熱海ニューフジヤホテルに向いました。

2日目の第1本会議、第2本会議の内容に付きましても会長から報告がありますので省略いたします。私の方からは、「富士山の環境を考える」ポスター・作文に付いて報告させていただきます。

当クラブ100周年記念実行委員会の松葉義之委員長にお願いしてポスターを何点か募集して、その中から2点を地区大会に応募させていただきました。

その中の1点中学1年の鈴木麻衣子さんが「野口賞」を受賞し、図書券と野口健さんサイン入りの本1冊頂いてきました。

終わりに、出席して頂いた方、大変有難うございました。

## 国際親善フォーラム報告



青島 克郎君

毎年地区大会の日程に合わせて、丁度記念講演の時間に国際親善フォーラムが開催されます。

新世代委員会からはローターアクトとインターアクトの部員達、国際奉仕委員会からは青少年交換学生の来日中の学生と帰国学生の人達、ロータリー財団委員会からはGSEメンバー、国際親善奨学生、財団学友会の皆さん、そして、米山奨学会委員会からは米山記念奨学生が一同に会し関係委員

会のロータリアンも参加しメンバーの紹介や活動報告が行われました。

フォーラム開催に先立ち11時頃から各メンバーが集まりはじめ、各部会ごとに情報交換や説明会があり、私はインターアクトの部会で海外研修に参加する生徒15名と随行の顧問先生1名、ロータリアン2名のうち当日欠席の生徒2名を除いた全員でJTBの担当者からの説明とロータリーからの伝達事項等の説明を行いました。

順心高校から海外研修に参加する山下友理、増田悠(はるか)の2名はロータリーの地区大会参加者と同じ電車で熱海の会場に向かい、第2本会議まで参加し帰路に着きました。

ただ、残念に思うことはこれだけ多くの各プログラムに参加している人達が集まったのに各グループ間でのコミュニケーションしかはかれずグループを越えた親好が出来なかったことです。今後のフォーラムのあり方を考える必要を感じました。

参加者(ロータリアンは除く)

新世代委員会

ローターアクト 15名

インターアクト 13名 顧問5名

国際奉仕委員会

青少年交換学生 8名(カナダ他)

帰国学生 1名

ロータリー財団委員会

GSE 5名(フロリダ)

リーダー：デビット・エンギ

国際親善奨学生 7名

財団学友会 2名

米山記念奨学会委員会

米山記念奨学生 15名

(担当/池ノ谷)